

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」

文部科学省・国立教育政策研究所

(平成29年4月18日実施、対象学年 6年生)

## 1. 調査結果 (平均正答率)

	本校	江戸川区	東京都	全国
国語 A	76%	74%	76%	74.8%
国語 B	57%	57%	60%	57.5%
算数 A	78%	77%	81%	78.6%
算数 B	44%	45%	49%	45.9%

国語A、算数A . . . 主として「知識」に関する問題

国語B、算数B . . . 主として「活用」に関する問題

## 2. 考察

- ・国語A(知識)は、都の平均と同じで、区・全国の平均を上回った。
- ・国語B(活用)は、都の平均を下回ったが、区・全国の平均とは同程度だった。
- ・算数A(知識)は、都・全国の平均を下回ったが、区の平均は上回った。
- ・算数B(活用)は、区・都・全国の平均を下回った。
- ・国語A・算数A(知識)については、上位層に属する児童の割合が高く、下位層に行くにつれて減り、全国や都の分布と同じであった。
- ・算数B(活用)については、中間層の割合が高く全国や都の分布と同じであったが、国語B(活用)においては、上位層から下位層にかけてほぼ均等に分布していた。
- ・国語・算数とも基礎的な知識については概ね定着していると考えられるが、知識を問題解決に活用する力については十分に身に付いていないと考えられる。
- ・算数では「数と計算」「数量関係」の領域で、正答率が低い傾向が見られた。

## 3. 今後の取り組み

- ・授業では、一人一人の児童の意欲や理解の状況を把握しながら展開していく。
- ・基礎的基本的な学力の定着が不十分な児童については、授業で個に応じた指導を工夫するとともに、放課後補習や家庭学習を通して定着を図っていく。
- ・国語については、自分の考えを友達に話す、作文や新聞などで文章に表すといった活動を多く取り入れることで、表現しようとする能力を育てていく。
- ・算数については、反復練習を通して基礎・基本の確実な習得を図りつつ、算数少人数指導を生かし、習熟度に応じた課題の工夫、自力解決の支援、練り上げの時間の確保などをして、思考力・判断力・表現力を育む指導の充実を図っていく。